



広島  
の歴史  
通なら  
知って  
おきたい

郡  
中国  
郡志と  
中郡  
古道く  
社・寺  
・祠く

編集  
てくてく  
中郡  
古道  
プロジェクト

## はじめに

「郡中國郡志と中郡古道～社・寺・祠～」の発刊は、江戸幕府開府から約400年、明治維新から約150年、それに、「郡中國郡志」の編纂の年、文政2年(1819)から200年目に当たります。

浅野藩は浅野藩初期17世紀に地誌編纂事業として「藝備國郡志」をつくり、文化元年(1804)には藩主浅野齊賢が「藝備國郡志」の改修事業として「藝藩通史」の編纂を頼杏坪に命じました。その後、編集局が置かれ「郡中國郡志下調べ帳」を各割庄屋に提出するよう命じました。

「郡中國郡志」は、「藝藩通史」の元資料なので「藝藩通史」よりはるかに詳しい内容です。当時の地域を知るためには貴重な研究資料となります。

当プロジェクトは安佐北区内の中郡古道(JR芸備線沿線地区)を中心に、局限した地域研究グループであるため、より詳しい資料である「郡中國郡志」を基礎に調査を試みました。(本文中に「古文書」とあるのは「郡中國郡志」のことです)

「郡中國郡志」上の内容は、200年の時の経過とともに大きく変わり、必ずしも現在においてすべてが役に立つとは限りませんが、先人たちが築いてきた資源や資産の中に、今日再活性化し利用・応用できる資源や資産があるのではないかという観点から、「郡中國郡志」を紐といてみました。

それは、近代化の過程で見失ってきた資源を再発見することであり、現代において新たな価値の創造を可能にすることでもあります。現地に住んでいる私達は、日々周辺にある風景や事物に見慣れていますので、気づきにくくなっています。その意味からも、読者の皆様からのご提案やご指摘を頂きますようお願いいたします。

「郡中國郡志と中郡古道～社・寺・祠～」の冊子は、私達、素人の地域郷土史の愛好家集団が試みるささやかな「地域起こし」の実験的資料冊子です。今まで住み続けた地域を愛し、今後も最期まで住み続けられる町づくりをするための試みの1つです。是非、お読みになって興味をお持ちになったところがありましたら、散策にお立ち寄り頂きお話を聞かせてください。大きな資源や資産は発見出来なくても、小さな資源と資産を複合的に組み合わせて、郷土の地域起こしの一端になれば望外の喜びです。

出版にあたり、広島県立文書館の西村晃氏に古文書解説のご協力を頂き、編集・印刷は、葉畑印刷様にご協力いただき出版する運びとなりました。

この本の発刊は、(公財)広島市文化財団の平成30年度助成金事業の一環としての活動です。

ここでお世話になりました皆様に御礼申し上げます。

平成31年2月

てくてく中郡古道プロジェクト 代表 黒川 章男

---

## 目次

### 白木町井原地区 . . . . . 5

I 地域の紹介と見どころ . . . . . 6

II 古文書に見る地名の由来 井原村 . . . . . 8

III 社・寺・祠 . . . . . 8

### 白木町三田地区 . . . . . 19

I 地域の紹介と見どころ . . . . . 20

II 古文書にみる地名の由来 三田村 . . . . . 22

III 社・寺・祠 . . . . . 22

### 狩小川地区（狩留家村・上深川村・小河原村） . . . . 37

I 地域の紹介と見どころ（狩留家） . . . . . 38

II 古文書に見る地名の由来 . . . . . 40

狩留家村 . . . . . 40

上深川村 . . . . . 52

小河原村 . . . . . 57

III 社・寺・祠

狩留家村 . . . . . 41

上深川村 . . . . . 52

小河原村 . . . . . 57

---

### 深川地区（中深川村・下深川村） . . . . . 61

I 地域の紹介と見どころ（深川） . . . . . 62

II 古文書に見る地名の由来 . . . . . 63

中深川村 . . . . . 63

下深川村 . . . . . 77

III 社・寺・祠

中深川村 . . . . . 63

下深川村 . . . . . 77

### 落合地区 . . . . . 85

I 地域の紹介と見どころ . . . . . 86

II 古文書に見る地名の由来 . . . . . 88

末光村 . . . . . 88

諸木村 . . . . . 89

玖村 . . . . . 94

岩上村 . . . . . 103

III 社・寺・祠

末光村 . . . . . 88

諸木村 . . . . . 90

玖村 . . . . . 94

岩上村 . . . . . 103

---



白木町 井原地区

## 広島市安佐北区 白木町井原地区

### I. 地域の紹介と見どころ

井原という地名は今から1000年前の古文書にも確認でき、そのころすでに独立した行政区だったことがうかがえる。

1300年代前半の南北朝時代、足利尊氏の側近として力をつけていた高師直の弟師重の子「氏教」が地頭として井原に来往し、数代後に「井原」を名乗るようになった、初代氏教以来10代の小四郎（元尚）まで約250年間井原に在籍した。その後江戸時代は福島氏・浅野氏の時代を経て明治をむかえる。

#### 1. 神ノ倉山公園

神ノ倉山は安佐北区が発行した「あさきた里山いちばん」にも選ばれるほど人気のある山である。



気流を受けて飛ぶパラグライダー

昭和35年から桜の植樹を始め、昭和45年には「神ノ倉山桜公園」としてオープン。林道も整備され、昭和57年からハングラライダーとパラグライダーのテイクオフ場を受け入れ、フライヤーは全国から集まるようになり、全国大会も頻繁に行われている。平成14年からは、4月の桜の開花期にあわせ「神ノ倉山公園さくらまつり」を公園内で実施、地域内外から参加者は増え続けている。



神ノ倉山公園さくらまつり



鍋谷城跡遠景



神ノ倉山公園藤棚

#### 2. 鍋谷城跡を含む井原氏関連の遺構

南北朝時代（14世紀初頭）に来往した井原氏の城跡とその麓の根小屋地域に広がる関連遺構。

城跡には堅堀、堀切、井戸、土塁などが程良く確認でき、特に堅堀は大規模でしかもその数も多く確認される。根小屋地域には城主の館跡や墓所跡、馬場跡などがあり典型的な中世の城郭遺構がいまも残る。

#### 3. 荒谷山からの眺め

雲海や日の出を求め写真愛好家に絶大な人気がある。

ハングラライダーやパラグ



ライダーのテイクオフ場もある。

白木町 三田地区

## 広島市安佐北区 白木町三田地区



下海戸の猪垣

## I. 地域の紹介とみどころ

「御田」「三田郷」の地名を祖先とする安佐北区白木町三田。自治体としての役割は失われたが「三田」の呼称は分かち難く残る。「三田小学校」「安芸三田郵便局」「中三田駅」というように。

「高田郡三田村」は合併のため、昭和31年9月30日をもって消えた。

## イ. 猪垣 (ししがき)

下海戸の山林の中に江戸中期に村人が築いた猪、鹿除けの石垣が唯一残っている。高さは1.3m、幅は40～60cmである。残存垣は約100m。この猪垣の役割は終る。現在では猪、鹿除けの金網鉄線の柵が造られている。

## ロ. 榑崎圭三翁開道紀功之碑

翁は弘化4年(1847)、高田郡三田村(現白木町三田福永)に生まれた。大正9年(1920)死去。74歳。翁は明治14年(1881)広島～三次間の開道を決意。沿道の人々に献地や協力を要請した。人々から「狂人」「田地盗っ人」と言われながらも、全長65km、幅4mの道路を明治16年(1883)に完成させた。通称榑崎街道と称している。この碑は翁の偉業を顕彰する

ため、5,222人の募金により明治31年(1898)に建立された。揮毫は日下部東作。開道により交通の利便は広く遠い村々まで大きな恩恵をもたらした。

## ハ. 中山峠の石畳

中郡道に中山峠の石畳が現在そのまま残っている。樹林のトンネルの中にあり、降り注ぐ木漏れ日が強烈ほど石畳は生える。広島城の築城時等に多くの人が行き交った情景が思い出されます。

人と出会うことはまずない。人を恐れない鹿が同道することも。

## 二. 白木山 889 m.

芸備線白木山駅から山頂までの所要時間は約2時間。山頂からは中四国の山地が遠望できる。山頂から東へ200m。アセビの樹に囲まれて水を湛えた直径2mの池がある。冷たい水で喉を潤す。この池が高南、須沢から三篠川へ合流する河津川の源流。

山裾に目を転じると、あちこちにひときわ樹々の繁茂した社叢が見える。人は神を敬い、神を畏れる。その心が結果として豊かな森林を育てるのではないか。



榑崎圭三翁開道紀功之碑



白木山登山口(白木山駅)

石畳がいにしえへと誘う  
中郡道の中山峠



狩小川地区



## 広島市安佐北区 狩留家町



伝統芸能「シャギリの行列」が狩留家本陣前を踊りながら通過する

## I 地域紹介とみどころ

## “狩留家は広島のアアシス”

狩留家は、広島駅や広島空港から35分程で行ける「広島に一番近い本物の田舎」です。

狩留家の生活中心道路は、400年程前に毛利輝元が普請した戦国時代の古道「中郡道」が貫いています。周辺には西八幡神社（広島市の重要文化財）、紅梅山天満宮、薬師堂、順正寺、東八幡神社、狩留家本陣（割庄屋邸）、そして湯坂道を登れば山神社やたたら跡等の史跡があります。

名勝としては、西大谷にある美観溪谷と九度瀬の滝、そして湯坂には棚田や山豪嶺（やまたちいわ）・天狗の休み滝（巨岩）、水車等々です。ゆったりと静かに時が流れる狩留家の町には数々の史跡や名勝がちりばめられています。

湯坂川では、特別天然記念生物のオオサンショウウオも散見でき6月には

ゲンジボタルが飛び交い、白木山・高鉢山・鬼ヶ城山等に囲まれた狩留家盆地の中央を流れる三篠川には「アユ」「天然のスッポン」等も生息し、川べりや森の中にはカワセミ、ヤマセミ、ルリビタキ、キジ等多くの野鳥が棲み、バードウォッチャーの目を楽ませる自然の宝庫です。

朝、水車小屋が建つ杉林に立つと、神々の降臨を思わせる木漏れ日を拝め、夕がたには中西橋の上に立って見える三篠川の川面に映る夕陽の景観は、悠久の昔を彷彿とさせます。

季節折々には、特産品の「狩留家なす」や「トマト」「狩留家米」等、近郊農家ならではの手作りの新鮮な農産物が豊富です。

広島からわざわざ食べに来られるほど美味しいラーメン屋とお好み焼き屋のお食事処もあり、史跡と自然の旅情をお楽しみ頂ける「狩留家は広島のアアシス」です。



# 深川地区

広島市安佐北区 深川地区

I 地域の紹介とみどころ



明光寺木造薬師如来坐像  
(広島県重要有形文化財)



善徳寺銅製梵鐘  
(広島市重要有形文化財)

深川は、三篠川沿いの上・中・下の3地域のうち、中深川・下深川の2地域を指します。この地域は昭和中期ごろまでは純農村地帯でしたが、近年は宅地化が進み、広島市のベッドタウンとしての様相を強めて来ました。

深川を貫いて流れる三篠川に沿って整備された土手から眺める自然の景観は、春の桜をはじめとして夏・秋・冬と変化に富み、地元民だけでなく遠方からも散策やジョギングに訪れる人たちの目を楽しませてくれます。

史跡に目を転じれば、平安時代には中深川の院内地区に「牛尾山正明院薬師寺」が建立され、往時は隆盛を誇ったといわれています。この薬師寺は弘法大師の開基と伝えられ、院号も天皇から賜ったと伝えられています。その故か中深川には弘法大師の伝説が多く残されており、奥迫地区には、それにまつわる岩や井戸跡等を今でも見ることができます。その中のひとつ「わっくり岩（わくぐり岩）」は日本民話百選に選ばれ、日本昔ばなしとしてテレビで放映されるなど全国的に名が知られています。

さらには毛利氏の祈願所として篤く崇敬された亀崎神社、明光寺薬師堂に鎮座する薬師如来坐像及び下深川の善徳寺にある銅製梵鐘など、深川には歴史的価値のある貴重な史跡が数多く残っています。

II 古文書に見る地名の由来

中深川村

中深川村

当村名何ノ故ヲ以斯相唱申候歟相知不申候  
 附居申候故深川ト唱候内上中下ト三ヶ村ニ分リ候得  
 共何ッ頃ヨリ三ヶ村ニ相成候歟相知不申候  
 当村名今ノ異変無御座ス

要約

「当村の名はどのような理由によって、深川と呼ばれるようになったのかは不明です。川筋に沿っているため深川と言われるうちに、上深川・中深川・下深川の3か村に分かれましたが、いつの頃からそうなったのかは不明です。

当村は今も昔も特に異変はありません」。

III 社・寺・祠

1 西塚

○亀崎八幡神社

亀崎	一社	梁・桁方三間
一八幡宮		柿（こけら）葺
	当社神主	久都内陸奥守抱
御神体		玉依姫 応神天皇
		神功皇后
勧請年号	相知不申	
当村諸木	末光四ヶ村氏神	
拝殿	一軒	梁三間桁五間 茅葺
幣殿	一軒	梁二間半桁三間半瓦葺
旅所	一軒	梁二間桁二間半 茅葺
木鳥居	一基	
弘法大師ノ真蹟		
横額	元就公御寄進	
石鳥居	一基	
毎年祭礼式	八月七日	下居
此月	下深川村獅子舞仕当村院内	
組ノ組頭元並郷中舞申歩行候		
但往古毛利家御代參並院内ノ城主		
牛尾遠江守殿御在住ノ節同方へ参		
り候格式ヲ以院内組工参り申候		
	八月十六日	神〇式
	…… 略 ……	
一	往古ハ社領神田等御座候由鳥井ノ元（地名）ト申所ヨリ内不殘神田ノ由福島正則公御在国ノ節悉ク没収被成	
	…… 略 ……	

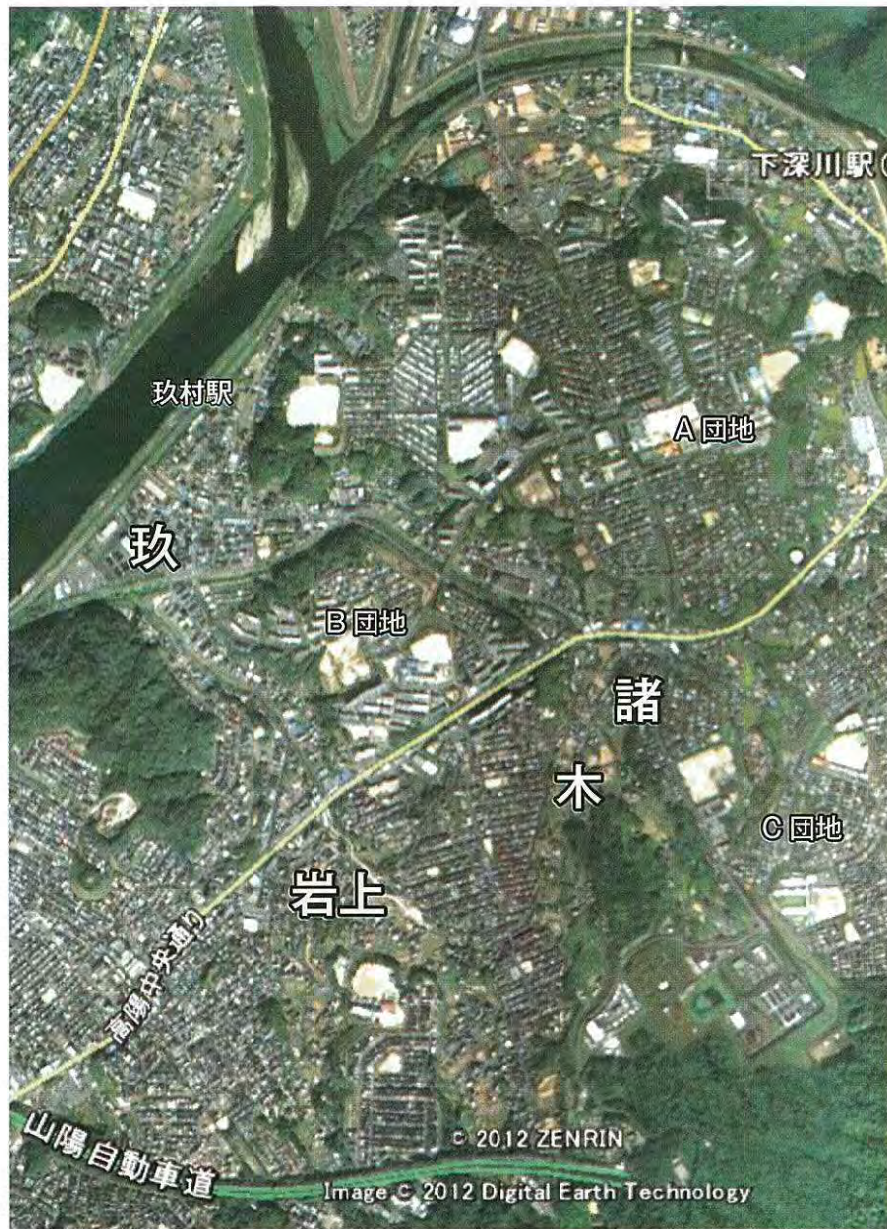
上記の通り、勧請年代は明らかでないが、文政期（1818～1829）には柿葺の社殿に拝殿・幣殿・旅所・木鳥居・石鳥居があり、中深川・下深川・諸木・末光の4か村の氏神で



落合地区

広島市安佐北区 落合地区

I 地域の紹介とみどころ



太田川、根谷川、三篠川の合流点



吉備津神社の神楽  
演目「世鬼（荒平）の舞」

諸木・末光地区は、古い家並や田畑があり、かつての農村の風情を残しています。地区の中心神社は吉備津神社で、文禄4年(1595)、備中吉備津神社からご神体の分霊をもち帰り、祀ったと伝えられています。立派な社殿とともに伝統芸能も代々継承され、守られています。落合地域は、全て旧舞の十二神祇神楽ですが、とくに、諸木十二神祇神楽は、平成16年(2004)に広島市重要無形文化財に指定されています。

岩上地区は、岩上神社が、こんもりとした森の中に山の方向に向けて鎮座しています。珍しいことに地区を下から見上げる位置にあります。これは、大部分の民家が南側の山の方向にあったことから、神社の前を末光村から矢口村に通じる当時の重要な道があったことから、この向きに建てられたようです。本殿は三間社流造で立派な社殿です。組物なども手が込んでおり、人々がこの地区の守り神である岩上神社にかける思いが感じられます。

また、拝殿の左手を降りたところに貝塚があり、未発掘の牡蠣殻や二枚貝などが露見しています。発掘すれば、新しい知見が得られるでしょう。